

# 令和2年度 刈谷市 共存・協働のまちづくり推進委員会 第4回夢ファンド部会(公開審査会) 記録

日時 令和3年1月16日(土)  
午後1時30分～午後3時45分  
場所：刈谷市民ボランティア活動センター

## 出席者

団体名・役職等	氏名
刈谷市民ボランティア活動センター センター長	米田 正寛
名城大学 教授	昇 秀樹
一般公募	杉戸 真
刈谷市公民館連絡協議会 書記	小川 行皓
刈谷市婦人会連絡協議会 会計	加藤 京子
NPO 法人刈谷おもちゃ病院	長澤 勇夫
防災ママかきつばた 代表	高木 一恵

## 欠席者

団体名・役職等	氏名
刈谷市商店街連盟 広報・IT委員長	鱸 裕介

## 事務局

所属	補職名	氏名
市民活動部市民協働課	課長	石川 領子
市民活動部市民協働課	課長補佐兼地域支援係長	酒井 聡
市民活動部市民協働課	協働推進係長	酒井 武士
市民活動部市民協働課	主任主査	下島 大樹
NPO法人ボランタリーネイバース	副理事長・調査研究部長	三島 知斗世
NPO法人ボランタリーネイバース	理事・相談事業部チーフディレクター	遠山 涼子

## 1 開会・あいさつ

- (1) 定刻になり、市民協働課協働推進係長が開会を宣した。
- (2) 市民協働課課長あいさつ

## 2 概要説明

### (1) かりや夢ファンド補助金公開審査会について

プログラムに基づき、事務局より説明を行った。

- 本日のスケジュールとして、この後3団体に、順にプレゼンによる発表を行っていただき、全てのプレゼンが終わったら、審議を行う。そこで最終的な得点を確定し、結果発表を行う。
- 1団体あたりの審査時間は18分(発表7分+質疑7分+感想2分+採点2分)とする。

- ・審査は、5つの項目を5段階で25点満点とし、審査員の合計得点の平均点に、会場投票の点数を加えたものを最終得点とする。最終得点が12.5点以上に満たない事業は不採択とする。
- ・高校生以上の方が会場投票を行うことができる。

### 3 審査

#### (1)まちづくり活動支援

#### 1 特定非営利活動法人 GreenTrust／刈谷市内・市道道路付属物等の点検及び補修方法の提言

##### ア プレゼン概要

- ・活動内容は、カーブミラーや標識などの安全施設を点検し、台帳にまとめて管理者へ報告する。公園周辺をパトロールして施設を点検し、ごみ・雑草の状況をデータベース化したり、空き缶散乱防止対策として、自動販売機の場所を地図に落としてデータベース化する活動をしている。
- ・2回目の申請は、今年度の活動の継続として、①道路付属物の点検を行い、台帳を作成、②補修が急務なものがあつた場合、補修方法を専門的知見から提言を行う。
- ・当団体の母体企業である専門業者職員が会員となり、きめ細やかな調査・提言を行う。市当局担当者と綿密な連携が行える。安全、安心して過ごせるまちづくりに貢献できる。
- ・事業のポイントは、市内を3つに分割し、3年単位で全域を調査予定。調査漏れのないよう行う。今年度は、北部の区画線と道路の調査を実施。来年度は、中部で行う予定である。
- ・今年度の調査では、位置図、詳細図面を作成し、数量は表にまとめて刈谷市土木管理課へ提出。地図に書き込めない裏道の場合は、数量がわかるよう資料にまとめた。比較的交通量の多い市道の区画線の摩耗や道路鉾の損傷が多く見受けられた。
- ・調査結果を整備する中で、対策資料の一つとして充実した内容となるよう、各地域や自治会の意見を取り入れたいと考えている。
- ・今後は防護柵などへ活動を広げていきたい。
- ・道路付属物を安全に保つには、管理台帳の作成、管理データの積み重ねが重要である。継続して活動を展開することは安全確保につながる重要な点であることをご理解いただきたい。

##### イ 質疑応答

審査員：市内の交通の安全が保たれていることが分かった。申請書に「市民に対する事業効果」として「市民からの問い合わせにも適切に対応できるように」と書かれている。早急に修繕を必要とする箇所の確認も大事であるが、会員だけでは対応しきれない部分を、一般市民から声をいただくことが大事になる。どのような形で声を集めているか。

団体：日頃のパトロールや区画線の点検時に目立つよう黄色いベストを着用している。何をやっているかと尋ねられた時には、「困っていることはありますか」「壊れているところがあつたら教えてください」と声をかけている。

審査員：その場合、活動中にしか声を集めることができないことになる。道路を歩いていて修繕が必要な箇所に気づいた場合、どこに問い合わせるとよいか。声を集める仕組みはあるか。

団体：現在、窓口は設けていない。連絡先を示し、それを広げて伝えていきたい。

審査員：協働する団体「道路安全パトロール会」とは、どんな団体でどんな活動をしているか。

団体：市民団体として市内の安全対策の点検、公園のパトロールを行う。メンバーは関連会社である専門業者職員が、専門知識をもって業務に携わる。

審査員：公民館では、防犯パトロール実施の際に、点検しながら歩いている。修繕が必要な箇所を見つけた場合、地区長経由で市役所に連絡して直してもらっている。活動内容に重なりがあるのではないかと。

団体：内容の重複はある。今回の提案は、専門知識を持つ企業の力を借りてデータに落とす点異なる。それを基に市役所に報告ができる点が特徴と考える。

審査員：報告の方法に違いがあることが分かった。

#### 【審査員感想】

まちづくり活動支援事業補助金は2回を上限としており、今回採択された場合は最終年となります。今後、大事な活動を続けるためには、資金が必要となります。母体会社を含め、市の施設管理部門や関係部署の理解を得るよう努めていただき、安定的な素晴らしい活動を今後も続けていただけることを期待します。

## 2 FG 依佐美ランナーズクラブ／“聖火リレーを体験しませんか”

### ア プレゼン概要

- ・平成25年12月結成。毎月第1第3土曜、午前9～10時に練習を実施。
- ・「好きな時間に参加OK チャリティジョグ&ウォーク」をこれまで5回開催。
- ・令和元年度の大会では、53名が参加。スタッフ全員がAED講習を受けて臨んだ。

#### 【大会の特徴】

- ①聖火リレーで実際に使用するトーチを使用。本物のトーチを持ち聖火ランナーの気分が味わえる。1964年オリンピックの聖火トーチは記念写真のみとする。
- ②聖火ランナー4名が参加。1964年オリンピック聖火ランナーの川角さん、お孫さんで今回聖火ランナーの鈴木さん、その他岩城さん、赤川の4名の聖火ランナーがトーチを持ち寄る。
- ③幼児から高齢者まで、障がいの有無にかかわらず誰でも参加可能。障がい者の方は介助者とともに参加できる方に限る。
- ④3時間の間、好きな時間に来て、好きなだけ身体を動かせる。歩いても走っても自由。
- ⑤会場で募金を行い、WAFCAを通じて、東南アジアの障害者の自立と就学支援に活かすほか、国内の災害復興として、中日新聞社会事業団に寄付する。
- ⑥スポーツ保険に加入するほか、救急箱を用意する。

#### 【大会参加の注意事項】

- ①参加費は無料。受付で渡すゼッケンを着用する。
- ②事故やトラブルは自己責任とする。受付時に誓約書に記載してもらおう。コロナ対策として、体温測定、手指の消毒を行い、実施の確認としてリストバンドを装着する。マスクを忘れた方のために販売分を用意する。
- ③ごみは持ち帰りを原則とする。会場内に分別ごみ箱は用意する。
  - ・刈谷市総合運動公園内にて、令和3年6月下旬開催予定。

#### 【予想される効果】

- ①本物のトーチで聖火リレーを体験できることをきっかけに、日ごろあまり外へ出ない高齢者や運動が億劫な人が身体を動かす喜びが分かる機会となる。
- ②仲間意識が生まれ、終了後も仲間の輪が広がる。
- ③身体を動かすことは大変ではなく、走ることでつながりあいを感じる機会となる。

## イ 質疑応答

審査員：オリンピックの聖火リレーは、2～3月から3～4ヶ月かけて行われ、7月にオリンピックが予定されている。提案イベントは6月に行う予定であるが、時期として適切か。また、オリンピック中止の場合は、前回東京オリンピックトーチのみとあるが、撮影会のみ開催して、ランニングは中止するということか。

団体：聖火リレーは3月後半から7月初旬にかけて行われ、愛知県では4月5・6日の予定である。聖火リレーが続いている期間に、トーチ使ったイベントを催すことについて、オリンピック実行委員会に問い合わせしているものの、現時点で回答はない。聖火リレーでは、直前にトーチが渡され、200mを走る。事前に希望した者は購入できるとされており、今回は3本用意する。

前回東京オリンピックのトーチは高浜中学校に飾られている。今回、持ち主の川角さんに持ち出しの許可を得て、写真撮影のためにお借りする。

本イベントと同時開催の「3時間チャリティジョグ&ウォーク」は毎年6月末に開催しており、継続性の面から6月に固定したい。

審査員：刈谷市総合運動公園は家族連れも多いが、会場は貸し切りとするか、一般利用者がいる中で開催するのか。参加者400名に加え、一般利用者がいる場合、感染対策をどのように考えているか。

団体：敷地内に大会用コースをつくるため、一般の方と重なることはない。9時～12時の開催時間中、いつでも出入り自由とする。開始時間は多く集まる可能性があるが、その後は数名ずつと予想する。受付時の対応は、2m間隔で並び、体温計測、リストバンド装着、誓約書の記入、聖火リレー参加者にはゴム手袋を支給する。

審査員：今後の感染拡大の状況によるが、健康のために開催されるイベントであり、安心安全に開催していただきたい。

### 【審査員感想】

- コロナ禍で、マラソン大会への参加を自粛したり、大会そのものの中止が多い中、走りたい人や交流したい人など、機会を求めている人は多いと思います。幅広くいろいろな方が参加できる点は素晴らしいです。感染した場合の重症化や後遺症などリスクは大きいですが、情勢をみながら、開催の方向に持っていけるよう、対策して取り組んでいただきたいです。
- 今後も継続的に活動してもらいたい活動です。今回、参加費は無料とされていますが、スポンサーを獲得したり、参加費いただいたり、事業収入を得ることも考えていただきたいです。そのためには、現在の活動を継続する以上の新たなビジネスモデルをつくる必要があると思います。応援しています。頑張ってください。

## 3 泉田郷土研究会／「泉田の歴史」冊子発行事業

### ア プレゼン概要

- 「泉田の歴史」について、泉田の人たちが過去どう生きてきたか、知っている人から直接聞き取り、記録に残し、多くの人々の記憶に残すことを目的に始めた。
- これまで5年間取り組んできた内容を冊子にまとめて発行する事業である。
- 団体の発足は平成27年8月。会員14名。毎月第4日曜に泉田市民館で活動。会員以外も自由に参加できる。

- 一つのテーマについて、話し合った成果をA4両面で記録する。ある回では、幼い頃、逢妻川で泳いでいると田んぼに水を流すための堰があった。その頃の様子をお年寄りに聞いたり、調べて分かったことを資料にまとめる。
- 会員内で共有するだけでなく、町内の方へ向けて、月1回、回覧板で回したり、泉田町の文化展に展示したりした。会員以外の方から、「山車の幕がある」と実物を持ってきてもらうなど、情報収集の成果につながっている。
- 富士松南小やその他の学校から依頼を受け、出前授業を行ったり、泉田だよりで歴史の話をしたりしている。
- 活動を始めて5年経過し、一度まとめたいと会員から声があがった。地域の方からは毎回コピーを取るのは大変と言われたこともあった。他地域から引っ越してきた方にも地域を知ってもらえるよう、冊子の制作を思い立った。回覧板で回すだけでなく、町内全ての方に伝えるには、資金や労力が必要となる。
- 冊子はA4版150ページ程度。回覧資料に手を加え、分かりやすい内容にする。地区の方には希望者に販売し、学校の先生にも寄贈したい。図書館や学校など公共施設での設置を検討する。

## イ 質疑応答

審査員：地域の歴史を調査記録し、地域の営みを後世に残す5年間の活動に敬意を表する。高須地区では、「高須の歴史散歩」という冊子が発刊され、回覧板を通じて購入した。購入すると安心してしまい、読み返す機会が少なくなっていたが、改めて手に取り、地域の昔の様子を知ることができた。学校や文化展での掲示と説明があったが、一部の方の関心に限られないよう、家族や子どもに周知できる行事、たとえばクイズラリーや歴史ツアーなどを考えているか。

団体：これまで、子どもたちに泉田の歴史を話す会を開いた実績があり、復活できるとよい。史跡巡りは、刈谷ふるさとガイドボランティアの会が主催するイベントが泉田でも開催されている。当会会員も参画しており、連携した取組を行いたい。学校との連携は、先生が多忙であることが多く実現していないものの、協力連携をしたい。

審査員：小垣江地区では、地区だよりの半ページを用い連載されている。泉田地区の場合、毎回一つの項目に関して取り上げられているが、冊子にする際には、テーマを設けるなど一定のパターンに当てはめてまとめ直すと読みやすい。読み手への配慮をお願いしたい。

団体：小垣江郷土研究会は大変素晴らしい活動をされている。まとめ直しに関しては、難しい面もある。たとえば年代の古いものから順番にすると面白くないことや、お話を教えて頂くお年寄りの興味関心やご存じの内容をもとにしており、統一性は持たせにくい面がある。冊子の回覧の順ではなく、歴史の古い順に並べ替える。今後の活動では、調査、回覧を続け、さらに5年後に冊子にしたい。

審査員：調べた内容を冊子だけでなく、ホームページ・SNSで紹介するなど、いろいろな人に見てもらえるよう工夫し、若い人を巻き込んださらなる発展を期待する。

### 【審査員感想】

- 自分たちの住む地域の歴史を知ることが、地域を愛する心を育てることにつながり、良いと思います。子どもの頃から見聞きすることは、地元にとっても本人にとっても良いことです。
- 地域の歴史を知ることが、防災にも役立ちます。地域がどのようにできたか、たとえば昔、川や池だったと分かることにより、住んでいる町を防災の観点からどう守るかと考えることにつながります。防災関係の団体と一緒に、地域の成り立ちを考えながら地域防災の取組をしていただきたいと思います。
- これからも多くの人たちが、冊子を読んで地域を愛する心が育まれることを願っています。

【団体】

- ・防災の視点は大事にしていけます。子どもたちには、自分たちで調べられるようにしていくことも大事だと考えています。

## 4 結果発表・全体講評

### (1) 結果発表

まちづくり活動支援事業（基準点：12.5点）

順位	団体名	事業名	審査点	会場点	合計点	採否
1	特定非営利活動法人 Green Trust	刈谷市内・市道道路付属物等の点検及び補修方法の提言	17.86	1.56	19.42	採択
2	FG 依佐美ランナーズクラブ	“聖火リレーを体験しませんか”	17.43	1.41	18.84	採択
3	泉田郷土研究会	『泉田の歴史』冊子発行事業	18.29	2.03	20.32	採択

- ・審査結果については、後日団体あてに郵送するとともに、市のHPにも掲載する。
- ・交付申請は来年4月以降に手続きを行う。

### (2) 全体講評(審査委員長)

- ・コロナ禍はNPO・市民活動に影響を与えている。子ども、高齢者を対象とした活動は3密を避けることが難しい。自らの活動をどうやって続けるか、それぞれの団体が知恵を絞っている。
- ・ウィズコロナからアフターコロナへ時が移っても、市民生活が元に戻るわけではない。アフターコロナはビフォーコロナと同じではだめで、復旧ではなく復興でなければならない。
- ・本日は緊急事態宣言を受けて、リモート参加している。大学においては対面講義とリモート講義をどう組み合わせるかが問われている。
- ・市民活動や市民参加も同じく、対面とリモートをどう組み合わせるか。リモートは制約もあるが、時間や空間を超えて、世界中とつながることができる利点はある。他方、触れ合いは対面でなければできない。双方の良さを活かす方策を考えなければならない。市役所の仕事も同じく、組み合わせを考えていかなければならない。
- ・各自の得意分野を活かして、刈谷のまちづくりに取り組むことで、魅力のあるまちにつながる。それぞれの分野でよりグレードアップしていただきたい。また、他の団体と交流して、まちづくりの活動の輪を広げていただきたい。

【特定非営利活動法人 GreenTrust】

- ・提案を受けて、市民参加のあり方を考えたい。市民が主役となる、市民参加のまちづくりを進める必要があるが、市民参加の方法には「アマチュアとしての市民」と「専門家・プロとしての市民」と2種類ある。NPO・市民参画を議論する上で、プロボノ（公共善のために）という手法が注目されるようになった。専門家としての市民が弁護士や企業の知識を活かして参画するとき、アマチュアとしての参加とは、活躍の仕方が異なる。そのことを行政や市民も学習する必要がある。

#### 【FG 依佐美ランナース】

- これまでの活動に付加価値をつけるよい試みである。
- 毎年開催するランニングイベントに、オリンピック聖火リレーという付加価値がついた。走るという活動の軸に、何らかの付加価値をつけることを今後も続けていただきたい。付加価値によって、参加できる市民を増やしたり、走ることの意味をグレードアップすることにより、市民活動として一段階上へとつなげていただきたい。

#### 【泉田郷土研究会】

- 提案を受けてアフターコロナについて考えたい。回覧資料によると、大正時代の泉田地区には隔離病棟があった。伝染病予防の施設である。日本には隔離病棟はない。近年流行した感染症で経験がなかった分、コロナ対応は後手となった。
- ドイツのビスマルクの言葉に「凡人は自己の経験に、余は歴史に学ぶ」とある。歴史に学ぶことで、さまざまな対応ができる。1世紀程前、泉田地区にあった隔離病棟が、どのような役割を果たしていたか。1世紀経ち、現在コロナで苦しんでいる状況をどう考えるか。グローバル化の広がりにより、コロナが終息しても、この先新たな課題は出てくるだろう。それに対してどう準備するか、どう対処するか、歴史から学ぶことができる。
- 1世紀前のスペイン風邪流行と比べ、IT進化によりリモートによる代替手段が生まれ、ワクチン開発が早いスピードに進んだ点は進歩である。他方、ロックダウン(都市封鎖)という対策は、1世紀前と同じ。検査の精度は高くなく、ITやDNA研究の進歩に比べ、対策が追いついていない。
- 本日の発表から、刈谷市の歴史を初めて知ることができた。どの程度の地域の中に隔離病棟があるといいか、考えるきっかけとなると良い。
- アフターコロナは前と同じ社会に戻ることはない。ビフォーコロナと、同じ点、異なる点を確認し、一段階上の社会を作っていくこと。NPOだけでなく、企業と連携して取り組んでいただきたい。